

# 令和元年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第6号（水稻）

令和元年8月9日発表  
 広島県西部農業技術指導所  
 対象期間 令和元年8月上旬～8月下旬



1		予報内容（8月下旬まで）		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	中生	少 〔葉いもち〕	やや少	◇出穂前後の降雨により、穂いもちの発生は助長される。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底する。 ◇葉いもちの発生が多かったほ場では、特に穂いもちの発生に注意する。 ◇にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除する。 ◇葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行う。
紋枯病	早生	やや少	—	◇昨年度は注意報を発表しており、多発生ほ場が多く見られた。前年度発生が多かったほ場では、特に発生に注意する。 ◇多湿条件になりやすい莖数の多い品種、莖数が多く推移しているほ場では発生に注意する。 ●要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が中生品種で20%以上。
	中生	並	並	
トビロウカ		多	多	8月9日発表の注意報第1号を参照する。
斑点米カメムシ類（カスミカメムシ類、その他加害種）※	中北部	—	やや多	◇出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになるので、出穂2週間前までに終える。 ◇予察灯（呉市安浦町）で誘殺数が多くなっているのに注意する。 ※カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。

○病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは、広島県ホームページ

広島県 植物防疫

検索

または



○お問合せ先：広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム  
 （東広島市八本松町原 6869 tel：082-420-9662）

## 2

## 予報の根拠（現況調査：8月1～2日、26地点調査）

(1) 穂いもち（中生：13地点調査）

◆現況調査結果（中生：少（葉いもち））

	本年	平年	前年
発生地点率	23.1	52.3	66.7
平均発生程度	1.03	1.17	1.21

(2) 紋枯病（中生：13地点調査）

◆現況調査結果（中生：並）

	本年	平年	前年
発生地点率	46.2	45.0	66.7
平均発病株率	8.3	9.1	8.0

(3) 斑点米カメムシ類

【予察灯（呉市安浦町）での7月第4半旬から8月第1半旬までの誘殺数累計（アカスジカスミカメ）】

本年 105 頭 平年 87.4 頭 前年 151 頭。

◆牧草地すくい取り調査結果については発生予察情報予報第3号を参照する。

「予報」「現況」は、「多～少」の5階級に区分して発表しています。区分の方法は、原則として、過去10年の数値を発生が多かった順に並べて、相対比較しています。

「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上  
「やや多」 : 2～3番目と同程度  
「平年並」 : 4～7番目と同程度  
「やや少」 : 8～9番目と同程度  
「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

区分	多	やや多	並				やや少	少		
順序	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

### 3

### その他の病害虫の発生状況（現況調査：8月1～2日，26地点調査）

病害虫名	現況	防除上の注意事項等
セジロウンカ	やや少	穂ばらみ期に幼虫が株当たり10頭以上いたら防除を行う。
コブノメイガ	並	被害株率20%以上の場合防除を行う。

### 4

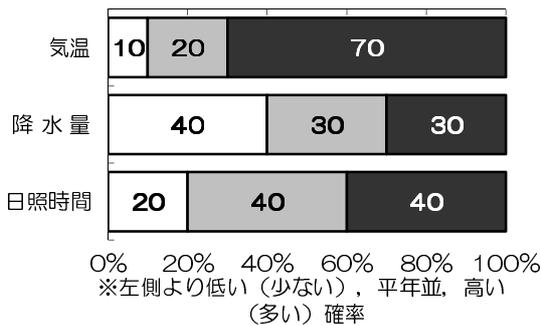
### 気象情報

#### 中国地方1か月予報（広島地方気象台8月2日発表，8月4日から9月3日までの天候見通し）

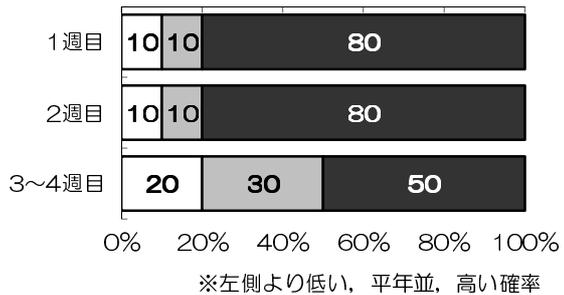
平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は，高い確率70%です。降水量はほぼ平年並，日照時間は平年並から多いと予報されています。

□ 向こう1か月の平均気温・降水量  
・日照時間の各階級の確率(%)



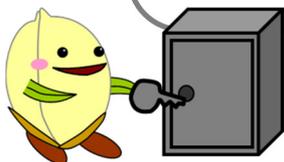
□ 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)



6月1日から8月31日まで，**農薬危害防止運動**実施中！

農薬を使う際は，容器のラベルをよく読んで，

使用方法や注意事項を守り，農薬による危害と事故を防ぎましょう。



粃之進



りもん